

合併「新生・大船渡市」

新時代は、
ここから、はじまった

市民文化会館建設に係わる活動が、新時代に一体感をつくり出していった

新生・大船渡市のまちづくりは、平成23年度（2011年度）までの10カ年を計画期間とする「合併建設計画」に基づき進められました。数々の事業の中で、特に注目を浴びたのが、市民待望の市民文化会館でした。当初、市では、単独施設としての建設を構想していましたが、市民と設計者、市の三者によるワークショップを重ねる中で、市民文化会館と図書館が一体となった複合施設として建設することを決断。大船渡市と三陸町の合併から、ちょうど7年後の平成20年11月15日、市民文化会館・市立図書館が開館しました。

「みんなで市民文化会館を創る会」でスタートした市民の集いの場は、検討内容の変更とともに、その後、プレイベントの企画・実施を担った企画運営委員会、そして、現在の自主事業実行委員会へと引き継がれています。

年表

平成

13年11月	新生・大船渡市誕生（大船渡市と三陸町が合併）
14年9月	大船渡・飛鳥クルーズ実施
14年10月	市制施行50周年記念式典開催
15年4月	大船渡商工会議所と三陸町商工会が合併
16年2月	三陸南地震（大船渡震度6弱）被害額26億4千万円「スネカ」が国の重要無形民俗文化財に指定
16年7月	新生・大船渡市漁業協同組合が誕生（末崎、大船渡、赤崎3漁協が合併）
17年3月	三陸縦貫自動車道・大船渡三陸道路全線開通
18年1月	民間企業16社が大船渡国際港湾ターミナル協同組合設立
19年3月	鷹生ダム完成
19年10月	大船渡港と韓国釜山港を結ぶ国際貿易コンテナ定期航路開設
20年4月	三陸大気球観測所が36年の歴史に幕を下ろし閉所
20年9月	大船渡東高校開校（大船渡農業高校、大船渡工業高校、高田高校商業科、広田水産高校家庭科を統合）
21年5月	新生・JAおおふなどが誕生（大船渡市農業協同組合と陸前高田市農業協同組合が合併）
21年7月	全国海の祭典「海フェスタいわて」東北初開催
21年11月	市民文化会館、市立図書館開館
21年12月	大船渡港永浜地区岸壁完成
22年2月	三陸鉄道「小石浜駅」が「恋し浜駅」に改称
22年7月	チリ沖で発生した大地震津波で養殖施設など4億円を超える大きな被害
22年10月	綾里診療所、歯科診療所新設開所
22年10月	綾里地区コミュニティ施設・綾姫ホール開所



盛・綾里両小学校の児童による「われは海の子」の歌声で、新しい歴史の幕開けを祝った

昭和27年4月1日、大船渡市が誕生しました。それから70年。長い歴史の最大の転機は、平成13年（2001年）11月の三陸町との合併。21世紀の幕開けとともに、本市の新しいまちづくりがはじまりました。

市民文化会館は、新しいまちづくりに挑戦させてくれた



やぎ きよひで
矢作 清英さん
(大船渡市民文化会館
自主事業実行委員会
委員長)

仲間とともに、市民文化会館独自のイベントを創り上げた

私は、三陸町越喜来の住民ですが、合併前から大船渡市の芸術文化協会と関わっており、新市に対して、あまり戸惑いはありませんでした。

市民文化会館建設のため、設計者と市、そして市民が話し合う機会があると知り、「会館を生かした新たなまちづくり」に関心を持ち、自主事業実行委員会の前身となる企画運営委員会の活動に参加しました。

市民文化会館が完成するまでに、この委員会によりプレイベントを4回開催、会館の完成後は、精力的に大小様々な事業を実施していきました。



大船渡市民文化会館・市立図書館の落成記念式典で万歳三唱をする出席者



図書館の児童書架は図書を読覧する子どもたちで混み合った



自主事業実行委員を募集しています！